

科目名 クラス 講義区分

監査論 [2] <秋>

【教員氏名】

朴 大栄
研究室:聖アンデレ館 9 階 905 号室
メールアドレス:park@andrew.ac.jp

【授業形態】

講義 アクティブラーニング

【講義・演習概要】

2008 年 9 月のいわゆるリーマンショック後の経済停滞は世界的な経済活動の後退を生じさせ、日本においてもこれまで以上の企業倒産を引き起こしてきた。過去においても、長期の不況が多く企業の倒産を誘発してきた。倒産企業においては、経営者による不正や財務諸表の粉飾が判明することもある。最近では、倒産には至っていないものの、東芝やオリンパスの損失隠し事件に関連して会計・監査の信頼性が問題となっている。このような状況のもと、監査の中身に對する社会的関心も高まり、監査基準や公認会計士法などの大幅な改訂も実施された。

監査論は、企業の独断専行を抑え、一般社会との協調を図らせるための会計学、経営学等の応用理論に属する。今年度の講義は、このような社会背景のもと、監査の基礎知識のみならず、現行の情報公開制度ならびに監査制度の問題点などにも触れていくことにする。

本講義を受講する前に「ディスクロージャー制度論」を受講しておくことが望ましい。

【学習目標】

本講義においては、企業と外部利害関係者とくに投資家との間に介在する金融商品取引法監査ないし会計監査を中心に、監査ならびに企業情報の公開に関する基礎知識の理解を目標とする。具体的には以下の学習目標をあげることができよう。

1. 経済事件の背景を理解する。
2. 企業の情報公開の内容・種類について理解する。
3. 会社法、金融商品取引法、公認会計士法等、監査を取り巻く法律を理解する。
4. 監査の必要性、監査の基礎理論を理解する。

【講義計画】

第 1 回: 監査とは:

監査論の導入部分として、監査の概略を説明します。ビデオなども活用します。

第 2 回: 財務諸表監査の歴史の変遷と監査目的の変化-イギリスからアメリカへ

第 3 回: 財務諸表監査の歴史の変遷と監査目的の変化-貸借対照表監査から財務諸表監査へ

第 4 回: 日本の財務諸表監査発展史

第 5 回: 監査基準と監査環境の変化

第 6 回: 監査の必要性

第 7 回: 監査を要請する法律-金融商品取引法

第 8 回: 監査を要請する法律-会社法

第 9 回: 監査を担当する専門家-公認会計士と法律

第 10 回: 監査を担当する専門家-公認会計士法

第 11 回: 監査を担当する専門家-監査法人と独立性

第 12 回: 監査人の義務と責任

第 13 回: 監査を取り巻く組織

第 14 回: 監査結果の報告

第 15 回: 健全な社会と新たな課題-社会を揺るがす経済事件

【成績評価の方法】

試験評価:60% レポート:20% 出席:20%
講義中の態度も含めて、総合的に評価します。

【使用テキスト】

盛田良久、百合野正博、朴大栄編『はじめてまなぶ監査論』中央経済社

【参考文献】

講義中に適宜指示する。

【準備学習の指示(事前学習 30 時間、事後学習 30 時間)】

監査論の基礎として、企業情報の開示制度を勉強しておく必要がある。

受講生は日本経済新聞の経済欄および証券欄を読んでおくこと。企業の情報公開、証券取引所における株価変動、株主総会等の記

事に特に注意しておくこと。

また、各自が就職希望など関心のある企業、業種について、企業情報を新聞やホームページで見しておくこと。

【その他備考(担当教員用)】

【備考(管理者用)】

(旧:監査論)02~13B 生読替